

令和 7 年 度
入学者選抜学力試験問題

後 期 日 程

国 語

注 意

1. 解答は別冊の解答用紙の所定の解答欄に書くこと。
2. 解答用紙の表紙を含むすべてのページの※印欄に、受験番号・氏名を記入すること。

受験番号は、本学受験票の受験番号を記入すること。

※印欄以外の箇所には、受験番号・氏名を絶対に書かないこと。

3. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。
4. 総ページ数

問題冊子—15 ページ

(うち白紙—3 ページ)

I

つぎの文章について後の問に答えよ。

それは難しい

田上さんは

を書き始める。

シンチョウにならないと^A

見たことがある。

などと変化する。

田上さんが、

を使って、なる早で作業を仕上げる

田上さんが

、
仕事に関しては無知な¹
何のヘンテツもない^B

ような。

、
普通の人には^C
ダ

トウな時刻に、

私と同じ

書くだけのもの、と侮^Qっていることは、

、
入社以来培^②った仕事の

見積もらせるわけだ。

わかるんでもなけりや。

田上さんは、

を覚えたのだろう。

も当然存在する。² 田上さんは、

男の社員たちは皆、

まるでいないかのように働いている。

ルールを^③緩めてくれるのに、

3

私は、

じる。片手に

でも表情でも陳情^④でもなく、

見ていて

を加える。

何時間か縮んだな。

間に合うのは

望む^E、などとポケット^Dを掘っている。そんな
望む^Eシュビ通りに物事が運んだ

存在しない。

よく言ったものである。

じみたものを感じ

田上さんは

4
そうやって

ていたところ、いつもとは

やり始めないだろう。自業自得である。

あの、と

気が付いているだろう。

田上さんは

田上さんは、

また仕事に戻る。⁵ 私は、

ような気分になって、

⑤ その場所の来歴の解説文を

無駄に過ごした。

結局、

かれていた。

、真ん中あたりにはこう書

- ・どんな扱いを受けても
- ・不誠実さには

6

私は、

を閉じた。

(津村記久子「ブラックボックス」による)

(注) ○なる早——「なるべく早く」の略語。

問一 傍線部A、Eのカタカナを漢字に改めよ。

問二 傍線部①、⑤の漢字の読みをひらがなで記せ。

問三 傍線部1について、これはどのようなことを喩^{たと}えている表現か、説明せよ。

問四 傍線部2について、「私」が「田上さん」についてこのように認識するに至った経緯を説明せよ。

問五 傍線部3について、

(a) 「人間としての田上さん」に対する「私」の認識はどのようなものか、説明せよ。

(b) 「会社員としての田上さん」のどのようなところに「ときどき悪魔じみたものを感じる」のか、説明せよ。

問六 傍線部4について、「卑しい悦び」とはどのようなものか、詳しく説明せよ。

問七 傍線部5について、「私」はなぜ「二人ともに取り残されたような気分」になったのか、説明せよ。

問八 傍線部6について、「私」はなぜ「首を捻^{ひね}って最初の1ページを見ただけでノートを閉じた」のか、詳しく説明せよ。

II

つぎの文章は、上田秋成が、ある年の春に、奈良の寺社・旧跡を巡った後、多武峯の妙薬寺を経て吉野に入り、上市、千本谷、金峯山寺蔵王堂、吉水院、実城寺、勝手神社、如意輪寺、金峯神社、子守宮（水分神社）、安禅寺、西行庵などを訪れたときのことを記した「紀行文」である。これについて後の問に答えよ。

多武峯に詣で侍る。定慧法師、唐より帰りまうで給ひて、御父贈太政大臣の津の国阿居の御墓を、ここに改め葬ぶられしとなり。御社、楼門、層塔、なべて比ぶものなききらきらしきなり。寺を妙薬と申す。僧房四十余、今を盛りの桜木に立ちまじりて、春の錦を張り渡したり。山を下りて、吉野の上市の郷に来る。桜が渡てふ名、後に呼べるものからいとをかし。千本谷の青葉が中を分け上れば、ほどなく発心門の鳥居のとなり。高野山の大師の筆といふ。この道開きませしは、醍醐の僧正のいさをしなりと聞くには、文字は昔のものを、こたび移して掲げたらむとおぼゆ。蔵王権現三柱、かしこみつ、さし仰ぎ奉る。昔の人は、かうも作れるものか。吉水院は、建武の帝の初めおはしましところなりとぞ。御影やなにやの御形見拝ませ、いと恐れありておぼえ侍る。瀧桜といふを望めば、青葉に移ろひてさうさうしき。「ここにても雲居の桜咲きにけり」と御詠みませしも見ゆ。実城寺と申すは、三代の帝の御座所なり。今は造り改めて、面影ばかりも留めず。勝手の社の前より谷を渡りて、如意輪寺に至る。某の仏を据ゑたる扉は、巨勢の大納言の絵なりといふに、後醍醐の帝の御漢詩を箔し奉る。ここにも御形見の物、なによりやと申す。塔の戸には、楠正行の、「帰らじとかねて思へば梓弓なき数に入る名をぞとどむる」といふ歌を彫りとどめたり。あはれあはれ、父君もこの君も屍は草叢に朽ちぬれど、仕ふる道の鑑とて、天の下の人、高き卑しきけぢめなく惜しみ悲しめるは、この御上にこそありけれ。御堂の後ろに後醍醐の御陵立たせり。新待賢門院のここに詣で給ひて、「九重の玉の台も夢なれや」と詠みませしを思ひ出でられては、かけまくも畏れあれど、万地小路殿のいさめを聞こしめしなむには、かう木魂などの住みかにあらせんやはとて、幣散らしぬかづき奉る。竹林院の丘、ほどよく見渡さるる。

子守の社と申すは、吉野山にましますみこもりの神か。さるは、水分と書きて高田、窪田に水分ります神なるを、言の省か

れたるより、今は産屋守りまする神ぞと宮つ子等も言ふよ。神にてませば、何事をも守らせまされど、水の神にこそおはす
 4 世の言草はかかるが多かりけりと、片笑みせられて過ぐ。朱の鳥居を修行門と呼べり。金の御嶽の祠は、この山祇の神
 なりと言へり。金精明神とぞ申す。また、ここに源義経殿の仇に迫られて辛きを逃れし物語をいふ塔閣あり。武士の後ろ見せ
 たる事を、をこわ^Dざにも語るよ。入りても見ず。安禅寺とて、やや深きに至る。青根が嶽向かひて見ゆ。西行法師が、「花散
 りなばと人や待つ」と詠みて三年籠もりたるといふ庵は、この奥まりたるところなり。また「苔清水」てふ歌は、後の偽り言
 5 なりと人言ふ。さらば、このあだし言のためにとて、このあだ物をも作り添へけん。心無き者はかうやうのうたてきわざをも
 すなりけり。

(「難波津の記」による)

(注) ○御父贈太政大臣——藤原鎌足。墓が阿居(現在の大阪府茨木市安威)にあった。○高野山の大師——弘法大師空海。

○醍醐の僧正——修驗道の再興の祖である聖宝僧正。○蔵王権現——金峯山寺に祀られている三体の金剛蔵王大権現。

○建武の帝——後醍醐天皇。○拝ませ——「拝ます」は「拝む」に同じ。○父君——楠正成。息子正行とともに南朝の忠臣と評された。

○新待賢門院——後醍醐天皇の側室。「九重の玉の台も夢なれや苔の下にし君を思へば」と詠んだ。○かけまくも——口に出して言うのも。

○万地小路殿——万里小路藤房。『太平記』には、後醍醐天皇に度々直言した人物として描かれる。○宮つ子——神主。

○金の御嶽の祠——金峯神社。○西行法師——歌人。吉野に隠棲し、「吉野山やがて出でじと思ふ身を花散りなばと人や待つらむ」と詠んだ。

○「苔清水」てふ歌——「とくとくと落つる岩間の苔清水汲みほすまでもなき住まひかな」という歌。

問一 二重傍線部A、Dを、それぞれ現代語訳せよ。

問二 傍線部1「さうぎつしき」とあるが、筆者がこのように感じたのはなぜか、説明せよ。

問三 傍線部2は後醍醐天皇が詠んだ和歌、

ここにも 雲居の桜 咲きにけり ただかりそめの 宿と思ふに

の上句である。「雲居」にこめられている二つの意味を明らかにして一首を解釈せよ。

問四 傍線部3について、言葉を補って現代語訳せよ。

問五 傍線部4について、

(a) 「かかる」とは具体的にどのようなことを指すか、本文に即して説明せよ。

(b) 「片笑みせられて」とあるが、「片笑み」には筆者のどのような態度が表されているか、詳しく説明せよ。

問六 傍線部5について、

(a) 「このあだし言」、「このあだ物」はそれぞれ何を指すか、簡潔に答えよ。

(b) 「かうやうのうたてきわざ」とあるが、筆者が「うたてき」と言うのはなぜか、詳しく説明せよ。

III

つぎの文章について後の問に答えよ。ただし、設問の関係で返り点・送りがないを省いた箇所がある。

太尉沛国劉矩叔方為^{リシトキ}尚書令、失^{ヒテ}將軍梁冀意、遷^{サレ}常山相、去^ル官。冀妻兄孫礼為^{リテ}沛相、矩不敢還鄉里、訪^ヌ友人彭城環玉都。玉都素敬^{ヨリ}重矩、欲^ス得^{ント}其意。喜^ビ於見^ル歸、為^ア除^キ処所、意氣周密。人^ニ有^リ請^フ玉都者。上^ニ「禍至無^ル日。何^ソ宜^{シク}為^ル其主乎。」玉都因^レ事遠出、家人不^ニ復占問。暑^{ナレバ}則鬱蒸、寒^{ナレバ}則凜凍、且飢且渴、如^キ此一年。矩素直亮、衆談同^{ジテ}愁。冀亦拳^ニ寤、輒^{ジテ}薄^ク為^シ厚、上補^シ從事中郎、復^タ為^ス尚書令。五卿三公、為^リ國光鎮。玉都慙^{シテ}悔自絶。

(応劭『風俗通義』による)

(注)

○太尉沛国劉矩叔方——のちに太尉となった沛国出身の劉矩。叔方はあざな。○尚書令——官職名。

○梁冀——後漢の政治家。○常山相——常山国の相(地方行政長官)。○孫礼——人名。

○彭城環玉都——彭城国の環玉都。○除——掃除する。○占問——様子をみたり尋ねたりする。

○從事中郎——官職名。○国光鎮——国の重鎮。

問一 二重傍線部 a、c の文中での読みを、ひらがなのみを用いて示せ。

問二 傍線部 1 について、

(a) 漢字ひらがなまじりで書き下せ。

(b) このようにした理由を説明せよ。

問三 傍線部 2 について、どのようなことを言っているのか、説明せよ。

問四 傍線部 3 について、どのようなことを表しているか、「如此」の内容を明らかにして現代語訳せよ。

問五 傍線部 4 について、誰のどのような態度の変化を表しているか、説明せよ。

問六 傍線部 5 について、何を「慙悔」したのか、説明せよ。

出典

科目	大問 番号	著者名	作品名	出版社名	掲載ページ	出版年度
(後期日程) 国語	I	津村 記久子	ブラックボックス	新潮文庫 (『とにかくうちに帰ります』所載)	pp.9-19	2015.9
	II	上田 秋成	難波津の記	明星大学 (研究紀要【人文学部・日本文学 科】29号 青山英正氏翻刻)	pp.18-19	2021.3
	III	応劭	風俗通義	台湾中華書局 (『新論、風俗通義、中説』所載)	pp.53-54	1965.11